

## 生命の尊さを知り尽くす僧侶が語る、元気の出る人生訓話

豊かな人生経験と仏教の教えを元に僧侶だからこそ提案できる人生の歩み方をお伝えします。

ーテーマに沿い、明るく前向きになれるお話しですー



### ■プロフィール

1944年11月29日 中国チンタオ生まれ。

大学卒業後、日本赤十字社神奈川県支部勤務、救急法と水上安全法の普及を務める。ダイビングインストラクター資格取得後、インストラクター養成学校（PADI カレッジ ジャパン）の設立に貢献し校長に就任。約1000人のダイビングインストラクターを養成、長年業界のオピニオンリーダーとして活躍。’93年浄土宗僧侶になり、三重県鈴鹿市の南龍寺住職を勤めた後、2003年父島に移住。小笠原諸島で唯一の寺の建立に奔走し2007年、新寺、行行寺開山。同寺にて住職として硫黄島の戦没者の冥福と人々の恒久平和を祈る。年数回本土に渡り、学校、PTA、福祉施設、医療施設などに赴き、平和と生命の尊さを説く講演会や法話会を精力的に行い好評を得る。

### ■主な講演テーマ

・教育委員会、学校関係

「いのちの大切さ」「親子の絆」「自然人の死とお釈迦さまの教え」

・企業・団体・その他

「人命と人権」「健康と安全」「人生の転機」「人生訓話」「道を拓く」（自らの道は自らで拓くべき）「歩めば至る」「二つの道があるとしたら苦しい道を選べ」「私が僧侶になったわけ」「新寺建立（苦中の楽）」「百年後に消えるもの、残るもの」「プロフェッショナルリズム」「リーダー考」「事故防止の考え方」「水難事故防止のために」

### ■主な講演先

・本田技研工業（株）鈴鹿製作所・日本鋼管（株）津製作所・堀田建設（株）・佛教大学四条センター・南海福祉専門学校・各地寺院、仏教関係団体・教育委員会、小中学校（各地）・ロータリークラブ、ライオンズクラブ（各地）・ケアンズ市日本人会 他多数

### ■掲載記事

・中外日報・読売新聞・京都新聞・浄土宗新聞・寺門興隆・知恩・週刊女性他多数

## 【吉田一心師のプロフィールと歩み】

大学時代、ライフセイバーとして活躍。海で尊い命が失われていく「人間の死」の苦しみ、生命の尊さを胸に秘め大学卒業後、日本赤十字社勤務。水上安全法、救急法などを学んだ後、さらなる活躍の場を求め商社へ転職、瞬く間にトップセールスマンに。以後、生命にかかわる仕事を模索し「助けられるはずの生命」に焦点を当て、29歳で脱サラ。ファーストエイド（応急処置）を目的とした会社を設立。水難救急に携わるためダイバー資格を習得、以後研鑽を積み、日本屈指のダイバーインストラクター養成学校PADIカレッジジャパンの設立に携わり校長に就任。業界トップに就くも、加齢とともに海での溺死体と自分が重なり恐怖が募った。「つらく苦しい死を乗り越えるため仏教で教えを請おう」と決意。49歳で浄土宗僧侶資格を取得。南龍寺（三重県鈴鹿市）住職に。葬儀の途中「せっかく供養しているのに坊さんだけ一生懸命でどうするのです!!」と弔問に訪れた人をいさめるなど、地元で親しまれる名物和尚へ。この間、単身赴任を快く聞き入れてくれた妻が他界。これまでのわがままを悔いた。

同時期、小笠原諸島で寺がなく葬儀ができない、と嘆く声に耳を傾け、長く寺院がなかった島の人達に仏とのご縁を結ぶ助けをしたい、と父島へ移住し寺の建立を決意。島民と絆をつむぎ、全国行脚しながら多方面から支援を受け、道のりは平坦ではなかったが2007年、行行寺開山。

## 【現 在】

2011年、世界自然遺産に指定された小笠原諸島。生命に息吹を与え、心を甦らせることのできる父島の住職として恒久平和を祈る。また、“聞き屋”を行い、ひきこもりの子どもや親、人生に迷った人々など、全国から寄せられる相談に応じている。毎年、夏には『母と子の夏休み大学～子供の心と体のために～』を開催中。

